



昭和大学藤が丘病院 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2022年9・10月
第348号

病院だより第348号(2022年9・10月号)

発行者 昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
編集責任者 広報・公關課課長 森岡 幹
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30
TEL 045-971-1151

藤が丘の救急は働き方改革を進めています

藤が丘病院 救命救急科 診療科長 林 宗貴

救命救急科の林宗貴です。2006年9月から当院救命救急センターに勤務し、2011年4月に診療科長を拝命しました。当救命救急センターは、1985年4月1日に神奈川県で第5番目の救命救急センターとして誕生し、横浜市青葉区、緑区、都筑区に加えて東京都町田市、川崎市西部の3次救急医療を担ってきました。



藤が丘病院では、専従の医師、看護師に加え、薬剤師、退院支援看護師・ソーシャルワーカー、診療放射線技師、理学・作業療法士、臨床工学技士など、多職種が協働し診療にあたっています。その中で、働き方改革を見据えて、医師の勤務体制は大きく変化しています。

2012年3月22日から10月23日まで行われた救命救急センター病床の改築に続いて、12月28日に救急医療センターの外来部門(ER)が、そして、2013年3月には救命センター専用CTの移設及び救急医療センター玄関・受付の改修を終えて、救急医療センター(救急の外来部門・病棟部門)が当院の3階に集約されました。医師の配置は、各科の当番制で担われていたER体制が、2017年4月から専従医による交代制勤務となり、一晩の夜勤医師は減少して

いるものの、救急受け入れ数は2012年3,228件、2017年5,490件、2021年6,842件と増加しています。初期から3次救急医療をER(救急・初療室)及び救命救急センター病床35床(集中治療室10床、ハイケアユニット25床)が、救命救急科を含めた専従医(救急医療センター)の守備範囲で、効率的に医療が行えていると思います。

この変革には、専門各科との連携も重要で、救急医療センターの専従医師が初期対応して、専門医と連携またはオンコールのシステムを整備し、夜間であっても遅滞なく専門診療ができる体制にあります。一部には、「最初から専門医に見てもらいたい」との要望もありますが、できるだけ迅速円滑に専門診療を提供できるようにいたします。

最後になりましたが、時節柄、切に新型コロナウイルス感染症が終息に向かうことを祈りながら、我々スタッフ一同、地域の救急医療のため、真心をもって努めてまいります。



新人からのメッセージ



これからへの抱負

藤が丘病院 4階南病棟 井上 未琉

4月より4階南病棟に配属となりました新人看護師の井上未琉です。私は福岡県出身で、4月から初めての一人暮らしが始まり、新しい職場環境のため生活と仕事の両立が大変なこともありましたが、同期や先輩のサポートもあり、今は元気に働いています。

4階南A病棟には0~15歳までの子どもが入院しています。子どもの成長や発達を理解し、対応することが重要です。子どもが泣いている時には、原因が痛



みなのか寂しさによるものかなど、判断に難しさを感じています。その中でも、成長や発達を考えながら、子どもを理解できる場面が少しずつ増え、自分自身成長を感じています。これからも先輩に相談しながら、子ども一人一人に合わせた関わりができるように学びを深め、患者さんに寄り添える看護師になりたいと思います。

青いユニフォーム

藤が丘病院 放射線技術部 佐藤 千尋

半年前、入職して少し経った頃、先輩方と同じ青いユニフォームを着られるようになって嬉しかったことを覚えています。ようやく「技師さん」と呼ばれるようになりました。嬉しい反面、診療放射線技師としての責任の重さを感じるようになりました。特に病棟撮影では、検査内容の確認や時間管理、撮影、画像確認、電話対応など一人で行わなければなりません。イレギュラーなことが起きた際も、まずは自分で考え、柔軟に対応しなければなりません。でも、一人で行うからこそ、「また来てくれたのね」と患者さんに顔を覚えてもらった時はとても嬉しく思います。

もっと青いユニフォームが似合う診療放射線技師になれるよう、やる気と元気と情熱を持って、常に笑顔で業務に励みたいと思います。

実感に裏付けられる信頼

リハビリ病院 リハビリセンター 川地 莉子

半年を通じて、私は「患者さんとの信頼関係」＝「寄り添う心+患者さんの実感」であり、この実感を身をもって学びました。

私はこれまでリハビリ＝身体機能の向上という印象が強かったのですが、同じくらい疾患についての患者教育も大切なことに気が付きました。患者教育には生活習慣の改善も含まれますが、何十年来の習慣を変

えることは難しく、患者さんの協力は必要不可欠です。その協力を得るために必要な「信頼」とは、円滑なコミュニケーションや寄り添う心と同じくらい「痛くない、以前と違う」といった「実感」に基づくものだと感じました。

私はこうした自身の経験に基づいた知見を積み重ねることで自分を磨き、患者さんや支えてくださる周りの方々に還元できるよう精進して参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

配属からの半年間と今後の抱負

藤が丘病院 医事外来課外来請求係 金子 葵

4月に医事外来課外来請求係に配属され、気がつけば半年が経過していました。この半年間を振り返ってみると、自分の知識不足、経験不足を痛感するめまぐるしい日々でした。それでも、優しく丁寧に指導してくださる先輩方のおかげで、配属当初より少しずつできることが増えてきたと感じています。自分の無力さに悩み、落ち込む日もありますが、いつでも話を聞いてくださる上司や先輩方の存在に励まされ、今の自分があります。今後、謙虚にひたむきに様々なことを吸収する姿勢を大切に、自ら工夫して業務の効率化にも取り組み、組織の中で信頼され必要とされる人になれるよう努力したいと思います。



横浜市の命の防人 救える命のため病院外で医療者が出来ること

8月29日(月)、横浜市平塚区にある消防センターで行われた横浜救急医療チーム(YMAT) 隊員養成研修に参加してきました。重症外傷において少しでも早く適切な初期治療を行うことは非常に重要です。YMAT は交通事故や災害などの現場に医療者が出動し超急性期治療を行う医療チームです。現場では消防を中心として命がけの救助活動が行われています。我々医療者も現場に出るためには医学の知識だけでなく、救助現場のルールを知る必要があります。今回の研修には実際に消防隊が出動してくださり本番さながらの研修ができました。過去の経験から多くを学び、広く共有し、有事を想定した訓練を行うことの大切さを学びました。



(藤が丘病院 救命救急科 山荷 大貴)

関東ブロックDMAT 訓練に参加して

9月17日(土)、18日(日)の2日間、茨城県で関東ブロック DMAT (Disaster Medical Assistance Team: 災害派遣医療チーム) 訓練が行われました。関東地域にある124病院が参集した本訓練の目的はDMAT 技能の維持で、藤が丘病院からは医師1名、看護師2名、臨床工学技士1名、薬剤師1名の計5名のチームで参加しました。訓練では本部へDMAT カー



援先の病院に向かい外来診療支援を行いました。また、移動中も車内でEMIS(広域災害救急医療情報システム)を用いて道路交通状況や災害状況などの情報収集と、実際の災害を想定したシミュレーションを実施しました。翌日の検証会では訓練の振り返りを行い、次回への反省点をチームで抽出、共有することができ、充実した訓練となりました。

(藤が丘病院 薬剤部 宮本 渚)

第34回救急医療勉強会を開催しました

9月6日(火)に「消防署との連携強化と救急医療に関する知識向上」を目的に近隣消防署の救急隊員の方々にご参加いただき、救急医療勉強会を開催いたしました。今回の勉強会テーマ「中毒(薬剤)」について、実際に救急対応した症例に基づき、救命救急科診療科長の林宗貴教授による講演を行いました。講演時には救急隊員の方々より症例に対応する観察・処置方法、劇物特有の匂い等の専門的な質疑がなされ、充実した勉強会となりました。救急医療勉強会も今回で34回目の開催となりました。今後も近隣の消防署と連携し、地域医療への貢献のため活動を続けてまいります。

(藤が丘病院 管理課 永井 彰)

拾得物について

昭和大学藤が丘病院では、毎日複数の拾得物が届いております。今回は院内で特に多い忘れ物や、よく忘れ物が確認される場所などをご紹介します。

まず、年間を通して「傘・ハンカチ・貴重品」が多く見受けられます。特に梅雨の時期には傘の忘れ物が多く発生しています。ハンカチは待合の椅子やお手洗いなどで多数見つかると、特に女性ものが多い印象です。貴重品は院内のいたるところで拾得されますが、貴重品の中でも多いのがカギ類やお財布です。



次に、忘れ物が見つかる場所ですが、外来や初診受付前、会計センターなどの待合スペースに特に多く見受けられます。その他にも、病室やCT・MRIなど着替えを要する撮影場所の更衣室でも忘れ物が多く見つかっています。

外来で診察室に入る前や会計センター・初診受付で呼ばれた時には、今一度振り返って、忘れ物・落とし物がないか確認していただくと幸いです。ご協力の程よろしくお願いたします。

(藤が丘病院 管理課 中村 優花)

開して開催しております。

動画は、地域の方々へ向けた内容となっており、医療従事者はもとより、一般の方が視聴してもわかりやすい内容となっています。褥瘡についてご興味がある方の参考になればと思いますので、是非ご視聴くださいますようお願い致します。

□公開期間 11月14日～12月5日

□視聴方法 藤が丘病院ホームページにて公開予定

□テーマ これだけは知っておきたい褥瘡ケア～褥瘡予防から治療まで～

□講演者 ①褥瘡予防のポジショニングについて
作業療法士： 柳澤 知美

②褥瘡に使用する薬剤について
薬剤師： 宮本 浩

③褥瘡予防・治療に使用するドレッシング材
皮膚・排泄ケア認定看護師：
八尾 早希子

④褥瘡の具体的な治療方法(薬剤・手術)
形成外科医師： 山田 浩之

褥瘡対策セミナーのお知らせ

毎年恒例となった褥瘡対策セミナーも、昨年度よりコロナ禍のため、あらかじめ収録した動画をWEB公

[皮膚・排泄ケア認定特定看護師 富田 和也]
[医事入院課 門田 美佳]

診療統計 2022年8月・9月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2022年8月	2022年9月	2022年8月	2022年9月
外来患者数	23,400人 (900.0人/日)	23,089人 (962.0人/日)	3,641人 (140.0人/日)	4,025人 (167.7人/日)
入院患者数	14,325人 (462.1人/日)	14,104人 (470.1人/日)	3,220人 (103.9人/日)	3,883人 (129.4人/日)
紹介率	90.4%	93.7%	68.2%	78.0%
逆紹介率	88.0%	79.9%	69.6%	66.6%

〈広報・公開講座委員会委員〉

森岡 幹 酒井 広隆 鈴木 洋 佐々木 春明 今井 敦 市川 度 松原 大
小岩 文彦 高木 睦子 前田 うづみ 山寺 志保 孫 雨晨 岡部 圭吾 門田 美佳
川手 信行 佐藤 美津恵 西村 栄一 廣井 高志 高橋 良治 (順不同)